

令和5年度 事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

学校法人 谷岡学園
〈大阪商業大学附属幼稚園〉

学校法人谷岡学園 令和5年度 事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

1 法人の概要

建学の理念

学校法人谷岡学園は「世に役立つ人物の養成」を建学の理念とし、それを(1)思いやりと礼節(2)基礎的実学(3)柔軟な思考力(4)楽しい生き方、と解釈しています。すなわち、まず人物的に優れ、社会に必要な知識・技能・資格を備え、かつそれを活用し得る広い視野・適応力・創造性を持つ、そして、何事にもプラス思考で取り組み、楽しい充実した生活を送ることのできる人材の養成を使命としています。

1 設置する学校・学部・学科等

(1)大阪商業大学

大学院	地域政策学研究所 地域経済政策専攻、経営革新専攻
経済学部	経済学科
総合経営学部	経営学科、商学科、公共経営学科(平成30年度より募集停止)
公共学部	公共学科

(2)神戸芸術工科大学

大学院	芸術工学研究科 芸術工学専攻、総合アート&デザイン専攻
芸術工学部	環境デザイン学科、プロダクト・インテリアデザイン学科 ファッションデザイン学科、ビジュアルデザイン学科 まんが表現学科、映像表現学科、アート・クラフト学科

(平成27年度より募集停止)

先端芸術学部	まんが表現学科、映像表現学科、クラフト・美術学科
--------	--------------------------

(3)大阪商業大学高等学校

全日制課程普通科

(4)大阪商業大学堺高等学校

全日制課程普通科

(5)大阪緑涼高等学校

全日制課程普通科
全日制課程調理製菓科

(6)大阪商業大学附属幼稚園

2 学部・学科等の入学定員、学生数の状況(令和5年5月1日現在)

(1)大阪商業大学

※1…平成30年度より募集停止

学部等	学科[専攻]		入学定員	収容定員	入学者数	学生数
大学院 地域政策学研究所	地域経済政策専攻	博士前期課程	10	20	2	8
		博士後期課程	3	9	1	4
	経営革新専攻	修士課程	10	20	3	5
	計		23	49	6	17
経済学部	経済学科		300	1,200	350	1,397
	計		300	1,200	350	1,397
総合経営学部	経営学科		400	1,600	465	1,867
	商学科		150	600	179	736
	公共経営学科※1		—	—	—	1
	計		550	2,200	644	2,604
公共学部	公共学科		250	1,000	272	1,061
	計		250	1,000	272	1,061
合 計			1,123	4,449	1,272	5,079

(2)神戸芸術工科大学

※1…平成27年度より募集停止

学部等	学科[専攻]		入学定員	収容定員	入学者数	学生数
大学院 芸術工学研究所	芸術工学専攻	博士後期課程	6	18	3	9
	総合アート&デザイン専攻	修士課程	27	54	43	86
	計		33	72	46	95
芸術工学部	環境デザイン学科		70	280	62	284
	プロダクト・インテリアデザイン学科		70	280	55	233
	ファッションデザイン学科		50	200	38	124
	ビジュアルデザイン学科		80	320	104	349
	まんが表現学科		45	180	71	228
	映像表現学科		45	180	77	272
	アート・クラフト学科		40	160	52	193
	計		400	1,600	459	1,683
先端芸術学部	まんが表現学科※1		—	—	—	—
	映像表現学科※1		—	—	—	1
	クラフト・美術学科※1		—	—	—	—
	計		—	—	—	1
合 計			433	1,672	505	1,779

(3)大阪商業大学高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒数
全日制課程 普通科	325	465	1,189

(4)大阪商業大学堺高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒数
全日制課程 普通科	400	324	1,002

(5)大阪緑涼高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒数
全日制課程 普通科	240	139	456
全日制課程 調理製菓科	60	48	177
合 計	300	187	633

(6)大阪商業大学附属幼稚園

保育年限	募集定員	収容定員	入園者数	園児数
3歳児(3年)、4歳児(2年)、5歳児(1年)	50	170	38	129

3 役員・教職員の人数

(1) 役員(令和5年5月1日現在)

理事	理事長	谷岡一郎	監事	岡山栄雄
	理事	谷岡辰郎	監事	西村義明
	理事	佐藤優		
	理事	佐藤賢治		
	理事	常岡裕之		
	理事	加藤幸江		
	理事	片山隆男		
	理事	板倉龍介		

(2) 評議員(令和5年5月1日現在) 20名

西本真治	的場啓一	高岸暎治	神戸直樹	谷岡一郎	片山隆男
佐藤優	谷岡辰郎	板倉龍介	好永保宣	岩田康宏	常岡裕之
佐藤賢治	寺田全輝	谷岡瑞子	渡辺真一郎	安藏伸治	小守良昌
加藤幸江	南方建明				

(3) 責任限定契約について

寄附行為第19条に基づき、令和5年5月1日現在、次のとおり責任限定契約を締結しています。

○対象役員氏名

(非業務執行理事) 加藤幸江 板倉龍介
(監事) 岡山栄雄 西村義明

○契約内容の概要

当該役員が本学園の役員として遂行した職務に関して、私立学校法第44条の2第1項に基づく損害賠償責任を負う場合、当該役員がその職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、私立学校法その他の法令が定める最低責任限度額をもって、当該役員の本学園に対する損害賠償責任の額の上限とし、当該上限を超える部分については、責任を負わないものとする。

○契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

上記契約内容のとおり。

(4) 役員賠償責任保険契約について

令和5年1月26日理事会決議に基づき、令和5年4月1日付で役員賠償責任保険に加入しました。

○被保険者

理事・監事・評議員

○契約内容の概要

保険名称: 私大協役員賠償責任保険制度

団体契約者: 日本私立大学協会

補償内容: (個人に関する補償)

- ・法律上の損害賠償金
- ・争訟費用
- ・損害賠償請求対応費用
- ・公的調査等対応費用
- ・刑事手続対応費用
- ・財産又は地位の保全手続等対応費用
- ・信頼回復広告費用

(法人に関する補償)

- ・法人内調査費用
- ・第三者委員会設置・活動費用

支払限度額:1億円(免責金額0円)

契約期間:令和5年4月1日～令和6年4月1日

○支払対象とならない主な場合

法律違反に起因する対象事由等。

(5)教職員(令和5年5月1日現在)

学校名	教員・研究員	職員	合計
大阪商業大学	207(99)	157(18)	364(117)
神戸芸術工科大学	196(101)	75(16)	271(117)
大阪商業大学高等学校	125(42)	13(1)	138(43)
大阪商業大学堺高等学校	101(31)	15(2)	116(33)
大阪緑涼高等学校	99(42)	14(2)	113(44)
大阪商業大学附属幼稚園	18(3)	3(1)	21(4)
合計	746(318)	277(40)	1,023(358)

※()は非常勤教職員(内数)、法人職員は大阪商業大学に含む。(役員関係及び兼務者は除く。)

2 事業の概要

大阪商業大学附属幼稚園

(1) 学校基本領域

- ・新型コロナウイルス感染症流行前の保育を取り戻すために教職員が工夫しながら、感染対策も講じて可能な限りコロナ禍前の保育となるように努めました。
- ・学校関係者評価において寄せられた意見も踏まえ、保護者や地域に信頼され、親しまれる幼稚園を目指して保育を実践しました。
- ・建学の理念が生きる魅力ある幼稚園を目指して、園児の好奇心、探究心及び自主性を尊重した園児自らが学べる保育を実践しました。また、教育効果を高めるため保護者との対話を積極的に行い、幼稚園と家庭の連携を重視しました。
- ・保護者懇談会や子育てサロン等を通じて、教育方針を踏まえた保育内容や園児の様子を保護者へ伝え、教育方針に対する保護者の理解を深めました。
- ・教員全体の職員会議、学年別の職員会議及び経験年数階層別の職員会議など、教員が意見交換できる機会を多く設け、課題整理を行うとともに改善点などを話し合い、保育内容の向上に努めました。
- ・教職員をメンバーとした「将来構想会議」において、谷学グランビジョンに沿った本園の将来構想及び本園のあるべき姿を検討しました。

(2) 学習指導領域

- ・新型コロナウイルス感染症の法上の位置付けが5類感染症へ移行され、日々の保育がコロナ禍前に徐々に戻る中で、季節の野菜や果物の収穫を楽しめるようにしたり、園庭の自然に関わったりしながら、四季を感じられるようにしました。
- ・宿泊保育を奈良県立野外活動センターにおいて行い、園児の思い出づくりと園児の主体性と自立心の向上を図りました。
- ・園児が自らの考えや思いを伝え、年齢に応じた話し合いができる保育を行いました。特に「ヒト」との関わりを意識し、コミュニケーション力が養われ、仲間関係が培われる保育を行いました。
- ・キンダーカウンセラーと教員が一ヶ月に一度、支援を要する園児や保護者への対応などについて意見交換を行い、要支援児に対する保育の充実に努めました。

(3) 生活指導領域

- ・登降園時に、園長や教員が玄関に立ったり、保育の中でその場に応じた挨拶をしたり、毎日の挨拶が習慣づくようにしました。
- ・幼児期の「自立」と「自律」を確立させるため、登園してから自分のことは自分でできる生活の流れを作るとともに、一日の保育の中で自分を振り返ったりすることができる時間の設定も継続して行いました。
- ・避難訓練（火災、不審者、地震）を行い、「自分の命は自分で守る」ことができるように指導しました。引き続き、日々の生活の中でも危険回避する力を発揮できるように指導していきます。

(4) 園児募集領域

- ・未就園児保育（プレスクール）、新入園児の募集においては、ポスターや「東大阪市政だより」など

を利用し、広報活動を行いました。また、保護者の不安や悩みに親身に答え、一人ひとりの保護者や園児に寄り添う保育を行いました。その結果、保護者のアンケートでは保育に満足しているとの趣旨の意見が多くみられました。

- ・未就園児対象の親子体験教室（カンガルークラブ、コアクラブ）の実施においては、参加親子が楽しめるように内容の検討を行い、実施しました。
- ・入園説明会ではプロジェクターを使用し、普段の本園の様子を写真や動画で知らせ、本園の良さと魅力を伝えました。
- ・保護者会活動は、保護者同士の交流を図るため、「社会見学」や「ボウリング大会」「講演会」も実施しました。また「夕涼み会」では、教員と保護者が協力して取り組み、本園の魅力を発信することができました。
- ・大阪商業大学附属幼稚園分園「保育センター」の移転建替えにより、2023(令和5)年9月に大阪商業大学高等学校のグラウンド南東角において新しい分園「そよかぜ」を開設し、未就園児保育（プレスクール）の利用者の増加を図りました。また、在園児の預かり保育利用者の増加もみられました。
- ・課外教室では、新たに「かきかた教室」を開設し、本園の魅力の一つとしました。

(5) 教員の研修・研究領域

- ・研修の受講や保護者との積極的な対話により、教員自身もカリキュラムや保育内容の見直しを行えるよう努めました。また、各行事の必要性を再検討する良い機会となりました。
- ・オンライン研修が開催される一方で、対面での研修も増え、様々な研修に教員が積極的に参加しました。また、他園との交流も増え、様々な意見や情報を得ることができ、教員の自己啓発につなげることができました。
- ・子どもの学びや育ちを保障する教材研究を引き続き行いました。
- ・保育の有機的な連携を図るとともに、保育の可視化を目指し、保育マップの作成にも取り組みました。今後、この成果を踏まえ、カリキュラムの改善を進めていきます。
- ・園内研修を強化し、自己評価から自己研鑽へとつなげることができました。
- ・他施設の公開保育へ積極的に参加し、本園における公開保育実施に向けた課題等を整理するとともに、大阪府私立幼稚園連盟へ2024(令和6)年度の公開保育の実施を申請しました。

(6) 経営領域

- ・保護者懇談会、子育てサロン及びおひさまフェスタ等において、本園の魅力や他施設との違いを伝え、保護者や地域の本園に対する関心と信頼の向上に努めました。
- ・収入増を図るために入園料と教育充実費の見直しを行い、2024(令和6)年度から適用することとしました。
- ・2022(令和4)年度の未就園児保育（プレスクール）の利用者27名から22名が幼稚園へ入園（入園者割合81.5%）しました。2023(令和5)年度の利用者は17名と減少に転じたため、プレスクールの利用者増を図り、本園への入園につながるよう努めます。
- ・新しい分園「そよかぜ」を開設し、2024(令和6)年度のプレスクール利用者も2023(令和5)年度から増え、今後、この分園を効果的に活用し、保護者の満足度を向上させ、園児の確保にもつなげていきます。

(7) その他の領域

- ・2024(令和6)年度に創立70周年を迎えることから、記念行事や記念となる取り組みについて、検

討を進めました。

- 大阪商業大学高等学校や大阪緑涼高等学校との連携保育を実施しました。また、地域の中学校から職業体験の生徒を積極的に受け入れました。さらに、教育実習生の受け入れも積極的に行いました。
- 地域貢献として様々な催し物を行いながら、一般の方にも本園を知っていただく機会としました。引き続き、本園を知ってもらえるように努めます。
- 学校評価（自己評価、学校関係者評価）を実施し、学校関係者評価では、保護者から一定の評価が得られました。主な意見は次のとおりです。
 - 園児の自主性を大切にして園児一人ひとりに寄り添った保育を展開している。
 - 各行事の実施では、園児たちの話し合いや行事までの過程を大切にしている。
 - 異年齢児の関わりも多く、思いやりやいたわりの心の成長を感じる。
 - 卒園児も訪れやすい環境、雰囲気がある。
 - 若い教員もいきいきと仕事をしている。
 - 自然や四季が体験でき、野菜やお米の栽培も経験できる。
 - コロナ禍前の保育が戻ってきて有難い。
 - 園児の主体性、自主性を大切にして、挑戦する気持ちを育てている。
 - SNSでの情報発信があり、幼稚園の様子がよく分かる。
 - 安全面にも配慮し、訓練も定期的実施している。

3 財務情報

資金収支内訳表
令和5年4月1日から
令和6年3月31日まで

収入の部

(単位 円)

科目	部門	大阪商業大学附属幼稚園
学生生徒等納付金収入		40,982,000
手数料収入		153,000
寄付金収入		0
補助金収入		38,000,800
国庫補助金収入		0
地方公共団体補助金収入		38,000,800
地方公共団体授業料軽減補助金収入		0
資産売却収入		0
付随事業・収益事業収入		5,245,660
受取利息・配当金収入		1,055
雑収入		689,213
借入金等収入		0
計		85,071,728

支出の部

科目	部門	大阪商業大学附属幼稚園
人件費支出		101,830,145
教育研究経費支出		19,487,836
管理経費支出		16,970,309
借入金等利息支出		0
借入金等返済支出		0
施設関係支出		56,750,699
設備関係支出		1,385,477
計		196,424,466

事業活動収支内訳表

令和5年4月1日から
令和6年3月31日まで

(単位:円)

科目		部門	大阪商業大学 附属幼稚園
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	40,982,000
		手数料	153,000
		寄付金	52,800
		経常費等補助金	38,000,800
		付随事業収入	5,245,660
		雑収入	689,213
		教育活動収入計	85,123,473
	支事業の活動	人件費	107,729,733
		教育研究経費	26,781,843
		管理経費	17,886,959
教育活動支出計		152,398,535	
教育活動収支差額		△	67,275,062
教育活動外収支	収事業の活動	受取利息・配当金	1,055
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	1,055
	支事業の活動	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	0
教育活動外収支差額			1,055
経常収支差額		△	67,274,007
特別収支	収事業の活動	資産売却差額	0
		その他の特別収入	0
		特別収入計	0
	支事業の活動	資産処分差額	0
		その他の特別支出	0
		特別支出計	0
特別収支差額			0
基本金組入前当年度収支差額		△	67,274,007
基本金組入額合計		△	835,333,856
当年度収支差額		△	902,607,863
前年度繰越収支差額		△	1,169,813,113
翌年度繰越収支差額		△	2,072,420,976
(参考)			
事業活動収入計			85,124,528
事業活動支出計			152,398,535

※人件費、管理経費には、法人経費が含まれています。